

<テーマ>前時の振り返りを生かし、必然性、主体性を引き出す導入の工夫(東松島市立大塩小学校)

【ねらいと特色】

前時までは、第5学年で学習した異種の二つの量の割合を想起させ、2つの速さの比較を公倍数の考え方や単位量当たりの考え方で比較する学習をしてきた。本時では、3つの速さを比較する方法を考えることを通して、速さを単位時間当たりの長さで表すことの数理的な処理のよさに気付かせることが主なねらいである。指導に当たっては、以下の点を工夫した。①導入で前時での児童の振り返りを活用し、学びの必然性をもたせ、児童の主体性や意欲を引き出した。②既習事項の活用、取捨選択により自力解決への見通しを持たせた。③予想が難しく、しかも、解決活動を通して自然にねらいにせまることのできる適度な困難さのある課題を工夫した。④集団解決の場面で、他の児童の発表した考えについて自分の考えや意見を述べる時間を確保し、自分の考えと友達の考えを「比べて聞く」ことを通して、互いの考えのよさに気付かせた。

【実践の概要】

